

翠が池

白山の山頂付近にある 7 つの火口池は、白山と同様に中世から信仰の対象となっていた場所である。白山の斜面に長時間滞在して修行する修験者たちは、山頂に向かう途中でこれらの池を通過し、7 つを一周することが一種のミニ巡礼とされた。7 つの池のうち最大のものは、1042 年の噴火でできた「翠ヶ池」で、その名の由来は、温泉成分が下から染み出してきたエメラルドグリーンになっているからである。中世、白山を信仰する人々は、白山とその周辺を仏様の世界を視覚的に表すものである曼荼羅で表現していた。その中で、翠ヶ池は山の神の住処として描かれており、信仰心の強い者は水の中から出てくるのを目撃することができるかもしれない。また、この水を飲むと寿命が延びるとい言い伝えもあった。